



2年目となる2016年度のIBM健保組合のデータヘルス計画では、初年度の実績等を踏まえて実施した各種事業および健康課題への対策、取り組み状況、その効果等についてご報告します。



## レセプトから見た医療費および疾病傾向

「疾病白書 2016」より

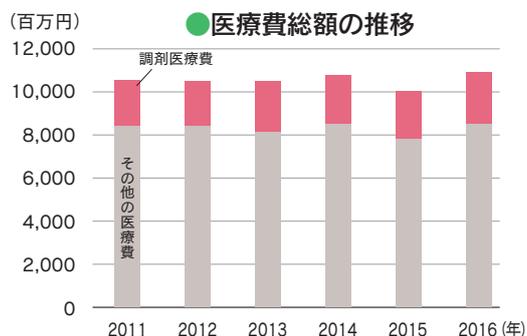
IBM健保組合加入者の医療費や疾病がどのような傾向にあるのか、レセプト\*の集計等によるデータを毎年「疾病白書」などにまとめ、その結果を分析して保健事業に生かしています。ここでは、2016年版の疾病白書を基に、その概要をご報告します。

\*レセプト：医療機関から医療費の請求のため健保組合に送られる「診療報酬明細書」。

### Report 1

#### 医療費の推移

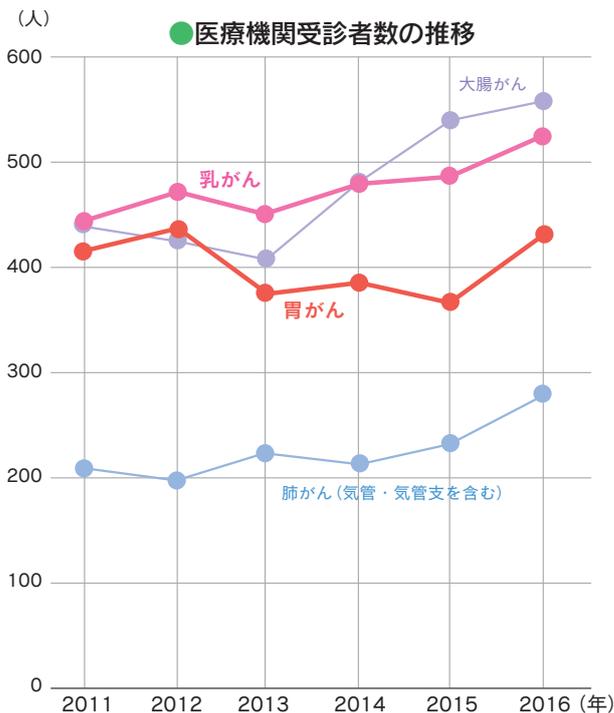
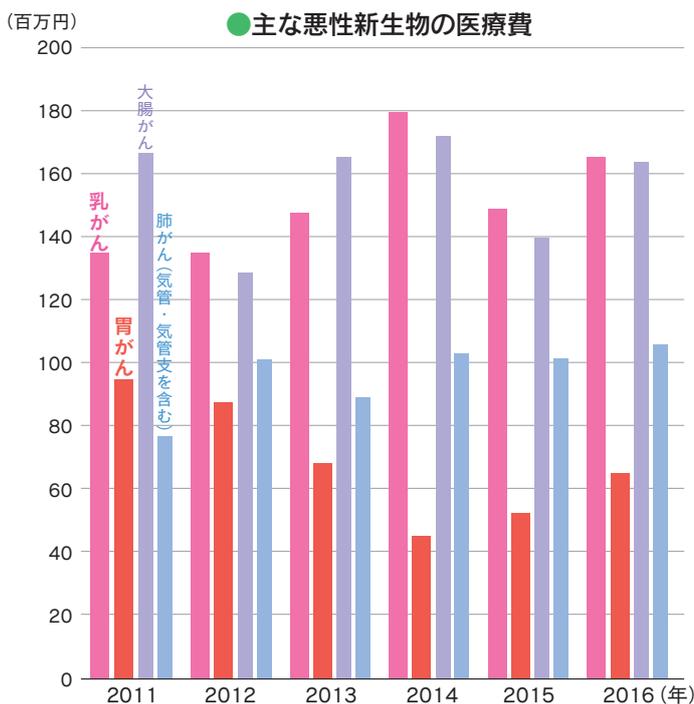
ここ数年、やや鈍化傾向にあった医療費総額が、2016年は急増しました。加入者数が減少するなか増加したことは、加入者一人当たり医療費が増えていることを示しています。また、5年前に比べ、医療費総額は3億5,600万円の増加ですが、そのうち調剤医療費が2億1,200万円増と、他を圧倒する伸びとなっています。調剤医療費の伸びを抑えるためにも、レセネット加盟薬局やジェネリック医薬品を利用するなど、今後ご協力をお願いします。



### Report 2

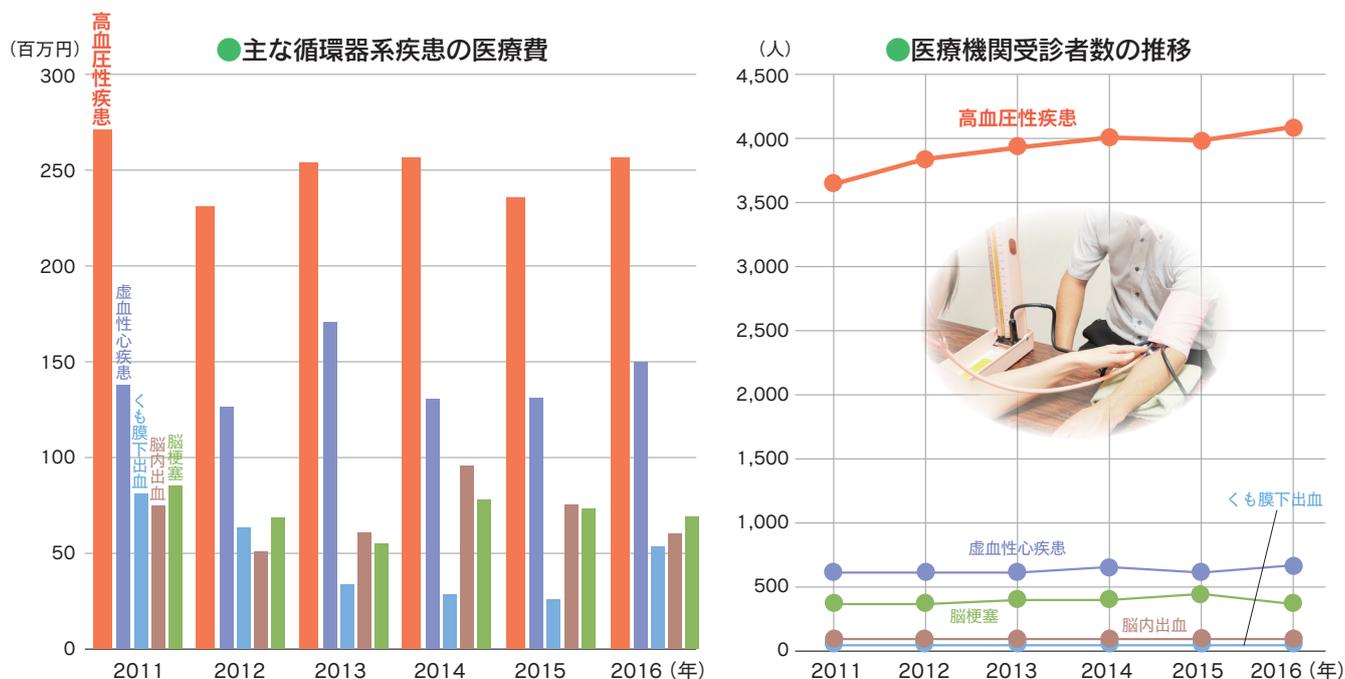
#### がん（悪性新生物）の傾向

医療費総額を疾病別に見ると、従来から悪性新生物が最も高くなっていますが、その中でも増加傾向にあるのが乳がん、肺がん（気管・気管支を含む）です。また、大腸がんも乳がんとはほぼ同水準の医療費総額の大きい疾病といえます。一方、受診者数では、伸びているのは大腸がんと乳がんで、胃がんは依然として多くの人が受診していますが、医療費総額は他のがんに比べて抑えられており、早期発見・早期治療がされていると考えられます。現役社員の方につきましては、4月から胃がん検診が変わります（My Health 94号参照）。該当された方は引き続き受診していただき、早期発見・早期治療に努めていただくようお願いします。また、女性の検診を充実させましたので、ぜひ受診してください。



## 循環器系疾患などの傾向－受診者数の多い疾患

受診者数の多い疾患のひとつである循環器系疾患を見ると、高血圧性疾患が圧倒的に多いことがわかります。この傾向はずつと変わらないほか、伸びは鈍化したものの依然として受診者は増え続けています。また、他の疾患に比べ一人当たり医療費は低いものの、受診者数が多いことから循環器系疾患の中では医療費（総額）が最も高くなっています。これらは、風邪などの呼吸器系疾患についても同様であり、一人ひとりが日頃から健康管理に留意することが、医療費抑制の面からも大切といえましょう。



★疾病白書等は、すこやかサポートPlusのデータヘルス（基礎統計資料）からご覧いただけます。

## 2018年4月から

### 箱崎・幕張の婦人科検診が充実します!!

健康増進センター（箱崎）に子宮頸がん検診の設備を増設し、マンモグラフィ検診車を配備します。幕張事業所には、子宮頸がん検診車とマンモグラフィ検診車を配備します。女性特有のがん検診にお役立てください。

- 健康増進センター（箱崎）と幕張事業所では、定期健康診断と同時に子宮頸部細胞診・マンモグラフィの受診が可能となり、利便性が向上します！
- 検査は女性スタッフが行います。
- 健康増進センター（箱崎）を利用する家族健診も同様に、婦人科検診を同時受診可能です。詳細はIBM 健保組合ホームページ、「利用者ガイド2018」（3月末発行予定）をご参照ください。

